

サッカーにおける国レベルの指導者育成機関が育成に及ぼす影響

－日本とスペインの指導者育成機関を比較して－

鈴木聡太（香川大学）

1. 目的

本研究の目的は、日本とスペインのサッカー指導者育成機関を比較することで日本の指導者が実践できていないが、スペインの指導者は実践していることを明らかにし日本の選手育成向上のために取り入れることができるものを明らかにすることである。

2. 研究方法

1) 調査方法

- ・日本とスペインの選手育成について論じられている論文等を基に日本とスペインのサッカー環境の違いを明らかにする。
- ・日本、スペインの指導者ライセンスを基に日本の選手育成機関の特徴、スペインの育成機関の特徴の違いを明らかにする。
- ・日本の指導者ライセンス保持者かつスペインの指導者ライセンス保持者を対象に両国の指導者ライセンスの特徴の違いをインタビューから明らかにする。

3. 結果と考察

1) 比較結果

特徴	日本	スペイン
チーム作り	自チーム中心	他チーム中心
分析	個人分析	チーム分析
指導	要素還元主義	全体論
トレーニング	自由	強制
技術・戦術	単純化	複雑化

2) インタビュー結果

5人中4人がスペイン指導者ライセンス受講後はプレーモデルを取り入れた指導をしていると答えた。プレーモデルについては自チーム作り、分析、トレーニング作りに活用していると答えた。また、日本とスペインの指導者ライセ

ンスの違いについては、全体像から入るか、個人の部分から入るかについて違いを感じていると答えた。

3) 考察

- ・スペインのトレーニング構築は、相手チームも考慮した上での短期目標、中期目標、長期目標が設定され構築されている。そのため、トレーニングに指導者の意図が反映されておりプレイヤー自身も毎回の課題意識を持ってトレーニングをすることができる。
- ・日本の要素還元主義に対しスペインではサッカーを全体論で捉えている。サッカーを全体で捉えた指導をすることで選手の戦術眼、状況判断が向上すると考えられる。
- ・上記の考察については主にプレーモデルという概念の有無に関係していると考えられる。プレーモデルがあることでサッカーを全体で捉えることや、自チーム分析、相手チーム分析からトレーニングを構築することに繋がると考えられる。

4. 結論

本研究では、日本とスペインの指導についてプレーモデルの有無が明らかになった。プレーモデルの理解を深めることでサッカーの捉え方、試合分析、トレーニングの3観点に影響が与えられる。このことからプレーモデルの理解が指導者レベルの向上に繋がると考えられる。

5. 主な参考文献

1) JFA サッカー指導教本 2020,制作 JFA カリキュラム検討プロジェクト,秋庭武彦,池内豊,遠藤善主,川俣則幸,木村康彦,鈴木敦,鈴木秀夫,中山雅雄,西川誠太,宮川真一,武藤覚,山崎貴史